

子宮頸がん検診をご希望の方は必ずご確認ください

節目年齢対象者

昨年度から子宮頸がん検診の受診可能年齢等を変更しています。
下記より対象者年齢、変更点をご確認ください。

細胞診			
20歳 (H17.4.2～H18.4.1)	22歳 (H15.4.2～H16.4.1)	24歳 (H13.4.2～H14.4.1)	26歳 (H11.4.2～H12.4.1)
28歳 (H9.4.2～H10.4.1)	62歳 (S38.4.2～S39.4.1)	以降は、R8.4.1時点の年齢が偶数年齢の方	

HPVは5年に1度しか受診できません。
対象の方は今年度是非ご受診ください。

HPV検査単独法 ※

30歳 (H7.4.2～H8.4.1)	35歳 (H2.4.2～H3.4.1)	40歳 (S60.4.2～S61.4.1)	45歳 (S55.4.2～S56.4.1)
50歳 (S50.4.2～S51.4.1)	55歳 (S45.4.2～S46.4.1)	60歳 (S40.4.2～S41.4.1)	

※HPV検査単独法の対象年齢の方には無料クーポンまたは受診券を送付しています。
検診当日に持参されない場合は受診できませんのでご注意ください

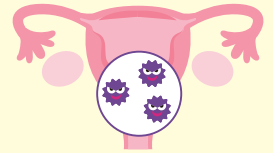
その他の対象者

※30～60歳で①～③いずれかに該当する方が対象

- ①令和6年度のHPV検査で陽性、その後の細胞診でNILM(陰性)になった方で令和7年度の子宮頸がん検診が未受診の方
- ②令和7年度のHPV検査で陽性、その後の細胞診でNILM(陰性)になった方
- ③入院、出産等特別な事情があった方に限り受診可能とする場合があります。
詳しくは健康増進センター(電話048-424-9128)までお問合せください。

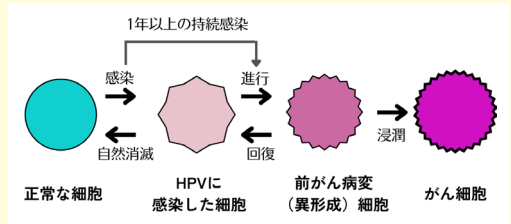
子宮頸がんとは

子宮の頸部という入口に近い部分にHPV(ヒトパピローマウイルス)が持続感染することで発症します。



HPV検査単独法とは

HPV検査単独法は、細胞にがんがあるかを確認する細胞診とは異なり、がんになる前の段階であるHPVに感染しているか(今後がんになるリスクがあるか)を確認します。HPV検査の結果が陽性であった方にのみ、がんになっていないかの進行度を細胞診でチェックします。



5年に1回の検診で大丈夫?

子宮頸がんは一般的にゆっくりと進行します。また、HPV検査は感度が高い(精度が高い)検査方法であり、浸潤がん罹患率の減少効果があるため、1度陰性となり子宮頸がんの原因であるHPVに感染していないことが分かれば5年間は新たに感染したとしても重症化することはないとされています。その他、HPV検査単独法について詳しく知りたい方は和光市ホームページをご確認ください。



市HP「令和8年度子宮頸がん検診について」

がん検診でがんを100%発見することはできません

がん検診でがんを100%見つけだすことは困難であり、合併症のリスク等ゼロリスクではありません。

検診の結果が陰性であってもがん罹患していることがあります。結果だけで判断せず、自治体が設定する検診間隔を守り、定期的に受診することでがんの早期発見、早期治療に繋がります。
症状や不安がある方は検診ではなく、医療機関を早めに受診しましょう。

確認チャート・無料クーポンについて

子宮頸がん検診をご希望の方は必ずご確認ください

個別健(検)診について

集団健(検)診について

女性のための
総合がん検診のご案内

歯周病検診・
高齢者の予防接種について

契約医療機関一覧

相談・教室・その他事業案内
健(検)診後のステップ